

ストラクチャーセンサーについて

ストラクチャーセンサー(occipital 社製)は三次元形状を素早く、正確に取り込むための機械です。

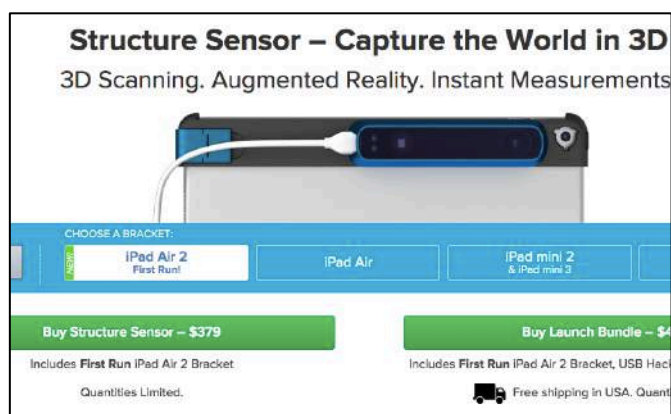
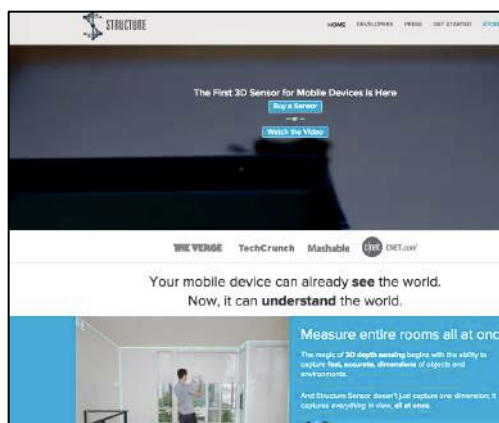


Structure Sensor (ストラクチャーセンサー) のイメージ

ストラクチャーセンサーの購入

ストラクチャーセンサーは下記の URL から直接購入ください。

<http://structure.io/>



対応機種は iPad Air 2、iPad Air、iPad mini4、iPad mini3、iPad mini2、第4世代 iPad の6種類となります。ストラクチャーセンサーの種類は1種類ですが、iPad の機種により取り付けブラケットが異なります。購入時にお気をつけください。(弊社からの発注や購入後のトラブルには対応致しかねます。予めご了承ください。)
購入後の初期設定などに関しては下記の URL を参照してください。 <http://structure.io/getstarted>

専用アプリのダウンロード

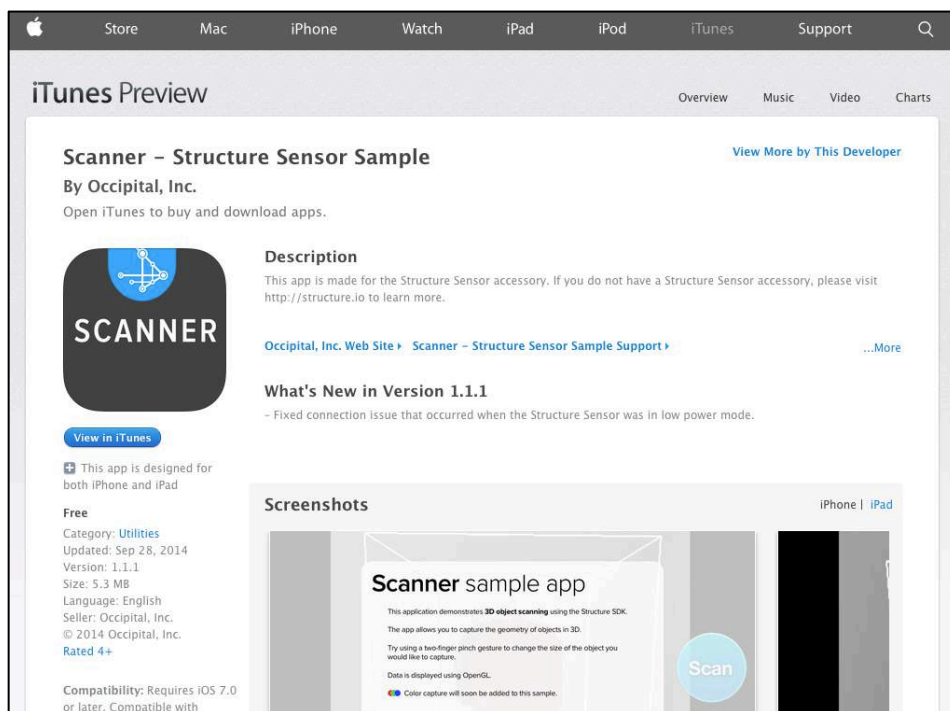
事前にアプリをダウンロードします。

ストラクチャーセンサー専用のアプリ「Scanner - Structure Sensor Sample」または「Model cluster」というアプリを利用します。

「Model cluster apps」で検索するか、はこちらからダウンロードしてください。

→<https://itunes.apple.com/jp/app/model-cluster/id877007981?mt=8>

本資料では scanner（occipital 社製）を利用した場合の説明を行います。



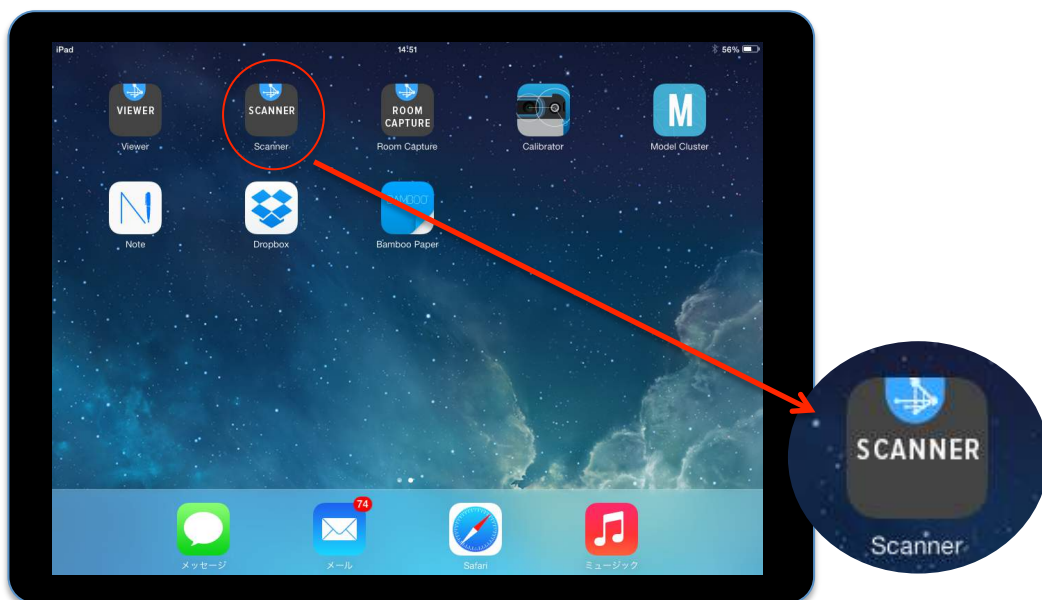
ストラクチャーセンサーと iPad の接続

- ①センサーの充電を事前に行ってください。
- ②センサーを本体に取り付け、ケーブルをつなぎます。



センサーアプリの起動

アプリをタップして起動します。

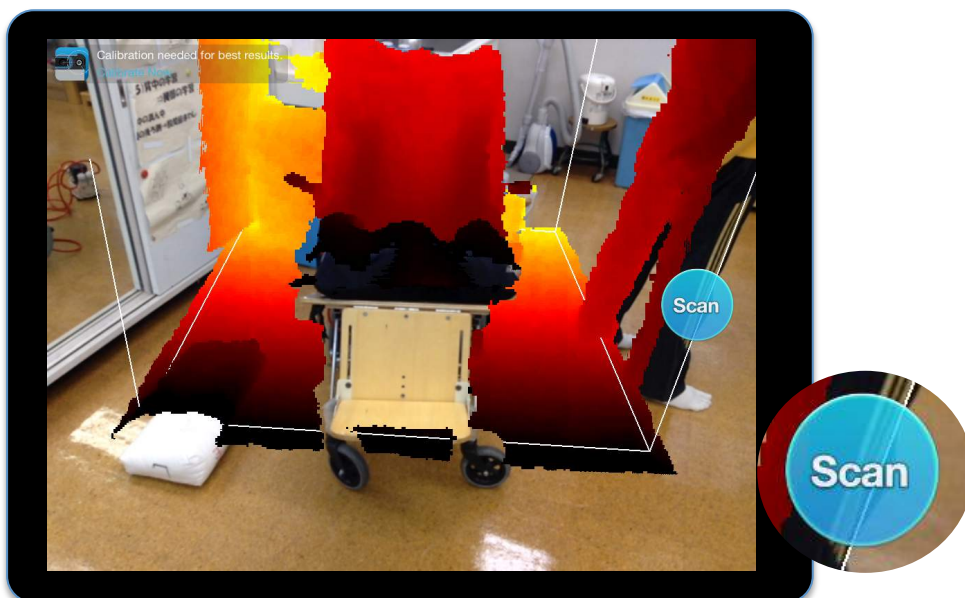


起動された iPad 画面です。画面の右側に Scan というボタンがでます。

センサーで計測する対象物の範囲を指定します。

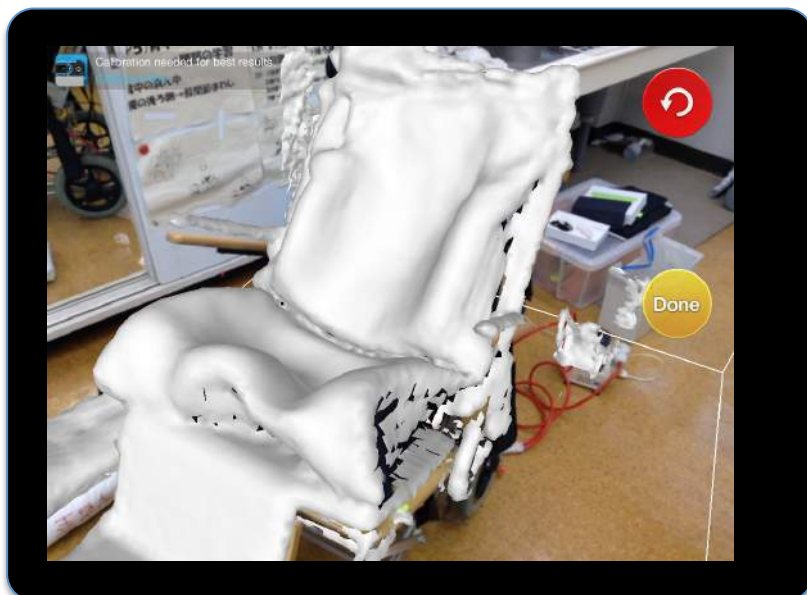
センサーはジャイロセンサーをもとに垂直、水平方向を自動で検出します。したがって、採型機がティルトした状態になっていると、そのティルトした角度のまま形状を取り込むこととなります。ティルトを起こして座面が水平になるように角度調整してから取り込んでください。

取り込み範囲の指定



ストラクチャーセンサーで形状を取り込む場合は、毎回取り込みの範囲を iPad の画面上で設定する必要があります。採型器が正方形の枠の内側にすっぽりと覆われるように二本指でピンチして取り込み範囲を指定してください。大きすぎると精度が下がりますが、小さすぎると必要な箇所がとれなくなります。前方や上、横に回り込んでみて範囲が正しく設定されている事を確認してください。

アプリの「Scan」のボタンをタップします。



センサーから照射されている赤外線当たっている範囲で三次元を自動的に取り込んでいきます。形状が綺麗にとれない箇所は何度かセンサーの角度や向きを変えながらスキャンしてください。

* 急激に近づいたり離れたりとすると、エラーを起こします。

形状の取り込む範囲

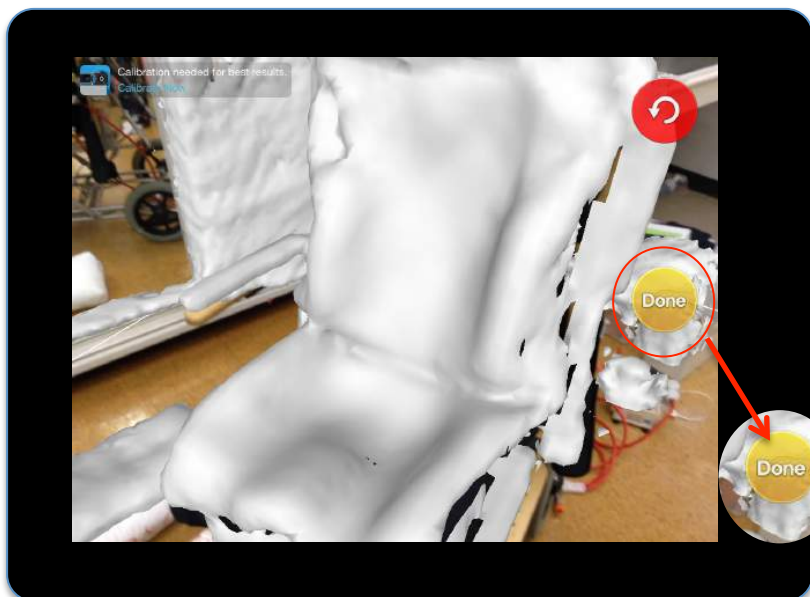
① 椅子の形状座面、背もたれ、頭（必要であれば）

② フレームの部分

フレームをもとに向きと肩の高さの基準とします。

* それ以外のものが取り込まれても、形状修正には差し支えありません。

取り込み後の処理



形状が取り込み終わると、図のように継ぎ目なく全体的にクッション形状をグレーに立体的に表示されます。この状態で「Done」というボタンをタップします。（*取り込み範囲などを再度設定する場合は赤の矢印（やりなおし）のボタンを押します。）



「Done」ボタンを押すと、取り込んだ形状の確認画面となります。座位保持と土台となっている部分まで取り込みます。周りが余分にとれても構いません。確認できたら「Email」ボタンをクリックします。



Email の送付画面